

生命環境科学研究科 地球進化科学専攻 学位論文（博士）審査基準

（審査体制）

地球進化科学専攻内に学位論文審査委員会を設置する。主査は本専攻の教授あるいは准教授（連携大学院教授・准教授を含む）とし、構成員から選考した副査3名を加えた計4名以上で構成される。また、この3名の内1名は他専攻、他研究科、外部の研究機関などの研究者を含むことができる。この学位論文審査委員会は論文審査および最終試験の合否判定の任を負う。

（評価項目）

- ① 筑波大学大学院学則に規定された要件を満たした上で、地球表層で生じる地質現象、生命の進化および地球惑星を構成する物質の物質科学などの幅広い分野での地球進化科学についての理解を深め、相応しい体裁の博士論文となっているか。
- ② 地球進化科学における解決すべき問題点を理解し、自らの力で研究を計画して推進する能力、総括する能力、および国際的に高い評価を得られる学術論文を公表する能力を有するか。
- ③ 地球進化科学を通して世界に貢献するという明確な意思及び態度を有するか。
- ④ 国際的に通用する英語またはこれと同等の他外国語力を有するか。
- ⑤ 国際社会で交渉することができるコミュニケーション能力を有するか。
- ⑥ 研究成果等を実地で応用するために、研究チームやプロジェクトの中で自らの役割分担を果し、必要に応じてリーダーシップを取ることのできる指導力を有するか。
- ⑦ 社会ニーズが高い課題を解決する能力を有するか。
- ⑧ 大学などの高等教育機関における教育能力を有するか。
- ⑨ 研究活動における高い倫理観を有するか。

（評価基準）

- (a) 上記①～⑨の評価項目の達成度および論文の内容が、学位論文としての水準に達していること。
- (b) 公開発表までに審査制度の確立した学会誌等に単著または共著の論文を2編（少

なくとも1編は英文の筆頭論文であること)以上を載せているか、あるいは受理されていること。

- (c) 1回以上は当該テーマで学会発表(国内学会あるいは国際学会)を行っていること。
- (d) 最終発表および公開発表で合格していること
- (e) 最終試験(学力の確認を含む)に合格していること。
- (f) 専攻で定める必修科目を含む必要単位を修了時に取得していること。

上記(a)~(f)の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、博士論文として合格とする。

生命環境科学研究科 地球進化科学専攻 学位論文（論文博士） 審査基準

（審査体制）

地球進化科学専攻内に学位論文審査委員会を設置する。主査は本専攻の教授あるいは准教授（連携大学院教授・准教授を含む）とし、構成員から選考した副査3名を加えた計4名以上で構成される。また、副査には他専攻の教員1名以上を含むことができるが、過半数を超えないこととする。また、必要がある場合には他研究科や外部の研究機関などの研究者を副査に加えることができる。この学位論文審査委員会は論文審査および学力の確認の可否判定の任を負う。

（評価項目）

- ① 筑波大学大学院学則に規定された要件を満たした上で、地球表層で生じる地質現象、生命の進化および地球惑星を構成する物質の物質科学などの幅広い分野での地球進化科学についての理解を深め、相応しい体裁の博士論文となっているか。
- ② 地球進化科学における解決すべき問題点を理解し、自らの力で研究を計画して推進する能力、総括する能力、および国際的に高い評価を得られる学術論文を公表する能力を有するか。
- ③ 地球進化科学を通して世界に貢献するという明確な意思及び態度を有するか。
- ④ 国際的に通用する英語またはこれと同等の他外国語力を有するか。
- ⑤ 国際社会で交渉することができるコミュニケーション能力を有するか。
- ⑥ 研究成果等を実地で応用するために、研究チームやプロジェクトの中で自らの役割分担を果し、必要に応じてリーダーシップを取ることのできる指導力を有するか。
- ⑦ 社会ニーズが高い課題を解決する能力を有するか。
- ⑧ 大学などの高等教育機関における教育能力を有するか。
- ⑨ 研究活動における高い倫理観を有するか。

（評価基準）

- (a) 上記①～⑨の評価項目の達成度および論文の内容が、学位論文としての水準に達していること。
- (b) 公開発表までに審査制度の確立した学会誌等に単著または共著筆頭の論文を3

編（少なくとも1編は英文の筆頭論文であること）以上を載せているか、あるいは受理されていること。

- (c) 公開発表で合格していること。
- (d) 学力の確認に合格していること。

上記(a)～(d)の評価項目すべてを満たす学位申請論文を、博士論文として合格とする。

(論文提出要件)

- (a) 大学卒業後、原則として7年以上が経過していること。
- (b) 公開発表前に地質学セミナーで事前に発表を行い、内容的に博士論文として相応しいか否かの確認を受けていること。
- (c) 申請要件および論文の内容や体裁について、世話人教員から十分な指導を受けること。